(2) 山のゾーンの基本目標

やすらぐ山、それは郷土の存在感

基本目標

- 山の貴重な自然を保護する
- 山の景観の保全と創造を図る
- 山に学び、山とのふれあいを促進する

多くの県民が「自然の緑」、「自然の景色」を今後も残しておきたいと思っています。(昭和62年「望ましい環境に対する意識調査」より)

これは、地域の人々が地域の姿を思い浮かべる時、その背景には常に美しい県土の山並みがあり、また、身近な山に登り実体験した自然の緑の豊かさが、心のやすらぎとなっているからです。

したがって、山の美しさ、自然の緑の豊かさが、いつまでも人々の心の中にとどまり、そして、山ならではの良さを次の世代におくるため、大切に守り、育て、いかしていくことが必要です。



黒河のブナ林（敦賀市）

■ 福井の山の特徴

県境、市町村境を構成する山々

石川県や岐阜県との県境付近は、白山火山地をはじめとして、標高1000～2000mの山岳が並び、貴重な原生林や野生動物の生息域として自然の宝庫となっています。またこれらの山々は、多くが自然公園として指定され、自然を満喫できる場として、県民の誇りともなっています。県内の山々の多くは地域の水資源涵養林、森林資源生産の場となっていると同時に、地域の遠景や地域のシンボルとして、またキャンプ場や自然遊歩道などのレクリエーション・スポーツの場として地域の人々に親しまれています。

特に、近年では、ゴルフ場やスキー場などの大規模な開発が進められています。

身近な生活の場にある小山・小山群

本県の主要都市には、必ずといっていいほど、その近郊に簡単に登れる小山・小山群があります。これらは、桜やつつじの花の名所、地域の展望台などの総合公園として、活用されている例が多く、また城跡、古墳、寺社林など、山そのものが歴史的資源として位置づけられているのも多く見られます。

このように、都市近郊の小山・小山群は、身近な緑とのふれあいの場として、地域の人々にやすらぎを与えています。

■ 福井の山の課題

豊かな山の環境を守る

◆ 県境を構成する山々については、自然の宝庫、自然を満喫できる場として現状を保全し、次の世代に残していく必要があります。

◆ これら以外の山々については、生産の場や開発の場として重要視され、その本質的な環境特性(天然林、水源涵養林、生物の生息域、山の風景など)が見過ごされがちになります。このため人々の生活に対する山の影響を十分認識し、保全と開発の調和を考えた上で、大切に守り育て、いかしていく必要があります。

◆ 身近な生活の場にある小山・小山群は、日々の暮らしの中で人々に緑のうるおいや生物の息吹を感じさせ、また身近なシンボルとしても位置づけられます。これらの山の自然や風景は大切に守り、育て、いかしていく必要があります。

山とふれあい、山に学ぶ

◆ 自然公園、自然遊歩道、自然体験の森などは、本物の自然にふれあい自然の営みを学ぶ場として、活用していく必要があります。

◆ 小山・小山群は、身近にある自然とのふれあい、人と人とのふれあいの場として、また山に登り自分達のまちの姿を眺める場として、活用していく必要があります。

◆ 山は、すべての人々やすべての生物にとって、共通の財産だという認識を深めるとともに、山の自然を守り、森林づくりに参加していく必要があります。